

これまでのみちの懇談会での主な意見と施策への反映について

資料 3

「回」について、(●)は第●回みちの懇談会での意見、(事前)は第27回みちの懇談会の事前説明時の意見。

これまでの主なご意見		回	計画や施策への反映	反映ページ
第1章 計画の背景とみちづくりの将来				
<ul style="list-style-type: none"> 利用者ニーズについて、例えば医療関係者や消防、物流、事業者の方のニーズの把握も必要ではないか。 	(22)	<ul style="list-style-type: none"> 物流、事業者からは道路に関する要望書等をいただいております、医療や消防に関するニーズも第2章の「つなぐ」に反映した。 	31～	
<ul style="list-style-type: none"> 神戸市には、まちづくり協議会や環境に関する協議会があるため、そうした人たちと連携し、計画へのご意見いただく場面があればと思う。 	(26)	<ul style="list-style-type: none"> 区役所を通して地域の人々の意見をいただき、計画へ取り入れた。 	—	
<ul style="list-style-type: none"> 改定前の柱名称「神戸の経済活動を支えるまちづくり」について、主要幹線道路は、市街地形成機能や空間機能も有しており、「神戸の都市機能を支える戦略的なまちづくり」に変更したほうがよい。 	(24)	<ul style="list-style-type: none"> 柱の名称は、「活かす～みちを活かし暮らしを豊かにする～」や「つなぐ～地域をつなぎ経済を支える～」、「守る～災害に備える・環境に配慮する～」とし、よりわかりやすいものに変更した。 	10	
<ul style="list-style-type: none"> 柱の名称（英単語）に、事務局がいくつかの意味を包含させたい意図は分かる（Life：生活、ライフスタイルなど）。これらが市民感覚で分かるかを踏まえて柱の名称を再検討した方がよい。 	(26)	<ul style="list-style-type: none"> 柱名称を英語から日本語へ変更し、誰でも共通のイメージができるようにした。 	10	
<ul style="list-style-type: none"> 柱を4本から3本にしたことで環境の大きな柱が無くなったような印象を受けることから工夫が必要。 	(26)	<ul style="list-style-type: none"> 柱名称を「守る～災害に備える・環境に配慮する～」に変更することにより、わかりやすくした。 	10	
<ul style="list-style-type: none"> 「守る」のサブタイトルについて、「環境を守る」とは言わないのではないか。市民がわかるのかどうか。わかりづらいのではないか。言葉が適切ではない気がする。 	(事前)	<ul style="list-style-type: none"> 「守る」のサブタイトルについて、「環境に配慮する」に変更した。 	10	
<ul style="list-style-type: none"> 第一章の「活かす」について、もっと書き入れてわかりやすくして欲しい。アウトカムを追加してはどうか。目指すべきものやテーマにつながるもの、整備のイメージなど。今のままでは伝わらない。計画のイメージをわかりやすく表現してはどうか。 	(事前)	<ul style="list-style-type: none"> みちづくりの指針のページについて、パースなどを充実させ、イメージしやすいよう工夫を行った。 	10	
<ul style="list-style-type: none"> 「Ⅱ 4.②ICTをはじめとする新たな技術の導入」については、環境に配慮したまちづくりだけでなく、戦略的メンテナンスや自転車利用環境の整備等でも用いられている。 	(24)	<ul style="list-style-type: none"> 「ICTをはじめとする新たな技術の導入」については施策ではなく、指針の推進に向けた視点の一つとして位置付けた。（②次世代技術の導入） 	11	
<ul style="list-style-type: none"> 次期計画において、施策の相互関係や全体像をどのように表していくかよく検討すべきである。 	(25)	<ul style="list-style-type: none"> 柱の相互関係が分かるイラストと、柱のイメージパースを作成することにより、全体像をわかりやすくした。 	9	
<ul style="list-style-type: none"> シニア層、ベビーカーを押す高齢者といった発想がない。若年層を中心とするだけでなく、やはり3世代を中心に展開していくべきである。 	(26)	<ul style="list-style-type: none"> 「活かす」のみちづくりの指針やユニバーサル歩道整備事業において、若年層から高齢者まで「3世代」への展開とした。 	10, 16	
<ul style="list-style-type: none"> 女性が働く社会は重要であるため、男性が車椅子やベビーカーを押しているシーンを絵として入れることにより、メッセージを打ち出してはどうか。 	(26)	<ul style="list-style-type: none"> 「活かす」のイメージイラストへ、母親以外がベビーカーを押している絵を挿入した。 	9	
<ul style="list-style-type: none"> 車の自動運転化等の技術革新が今後も見込まれるため、これらを踏まえて計画を検討する必要がある。 	(26)	<ul style="list-style-type: none"> 計画の推進に向けた視点の一つとして位置付けた。（②次世代技術の導入） 	11	
<ul style="list-style-type: none"> 視点について、「民」（市民）や「産」（民間）はあるのに「学」が入っていない。産官学連携を入れてはどうか。 	(事前)	<ul style="list-style-type: none"> 計画の推進に向けた視点の「④協働と参画」に大学や事業者との連携について記載した。 	11	
<ul style="list-style-type: none"> 現在のアウトカム指標に加えて、例えば環境であればCO2削減や緑化などの指標を検討した方がよい。 	(22)	<ul style="list-style-type: none"> みちづくりの指標に、CO2排出量を追加した。 	12	
第2章 将来像の実現にむけた取り組み				
<ul style="list-style-type: none"> 兵庫運河のプロムナードなど、「都心とウォーターフロントを向上させるまちづくり」の施策の構成については、再調整する必要がある。 	(24)	<ul style="list-style-type: none"> 兵庫運河のプロムナード整備については、第3章の「既成市街地（東灘～長田）」に記載した。 	63	

これまでの主なご意見		計画や施策への反映	反映ページ
	回		
<ul style="list-style-type: none"> 重点施策以外の評価について、定量的に評価できるものもあるのではないかと。また、重点施策の評価については、定量的と定性的が混ざった目標値があり、分けた方がよい。 	(25)	<ul style="list-style-type: none"> 定量的に評価できるものは、全て目標値の設定を行った。 	13～
<ul style="list-style-type: none"> しっかりと優先順位を検討し、施策を選定する必要がある。 	(23)	<ul style="list-style-type: none"> 施策について、5箇年の実行計画により、市として推進していくべき施策を選定し第2章に位置づけた。さらに、第3章において、地域の特性に応じて施策を位置づけた。 	13～
<ul style="list-style-type: none"> みちづくり計画の中で似たような言い回しが出てくるので理解しにくい。(例：市民との協働で育む美しくにぎわいのあるみちづくりと魅力・にぎわいを創出するみちづくりの関係等) 	(22)	<ul style="list-style-type: none"> 似たような言い回しにならないよう、表現を見直した。(例：にぎわいを創出するみち、景観に配慮したみち等) 	26, 29
<ul style="list-style-type: none"> 「0.」という使い方がよいのかどうか。「1.」から始まるのではないかと。 	(事前)	<ul style="list-style-type: none"> 「基本的な考え方」に変更した。 	14
<ul style="list-style-type: none"> C評価が複数年続いているものへの対応を考えるべき。例えば、民間が負担することになっている工事費が確保できないといった原因の場合、市が負担してでも進める覚悟が必要ではないかと。 	(22)	<ul style="list-style-type: none"> 複数年C評価が続いている施策について、民間が負担することになっている工事に市の予算を充当するのは難しいが、計画を見直したうえで、関連事業者と連携を取りながら進めてまいりたい。 	13～
<ul style="list-style-type: none"> C評価の理由として課題があげられているが、それを受けて今後どうするかを検討する必要がある。 	(25)	<ul style="list-style-type: none"> C評価の施策について、課題などをよく分析し、総合的な視点から計画を見直しを行い、新たな5箇年の目標値を設定した。 	13～
活かす～みちを活かし、暮らしを豊かにする～			
<ul style="list-style-type: none"> 「リデザイン」の図について、「+ design」が浮いているように思える。もう少し、説明が必要ではないかと。題名にも見える。 	(事前)	<ul style="list-style-type: none"> 「基本的な考え方」の「道路のリデザイン」の説明ページを修正した。 	14
<ul style="list-style-type: none"> 今後、少子高齢化・人口減少の課題に対応するには、車いすユーザーの視点に加えキャリーバックを持つ旅行者やベビーカーを押す子育て世代の視点も必要であり、子育てのしやすいまち、多世代の暮らしやすいまちを目指す必要がある。 	(24)	<ul style="list-style-type: none"> 車いすユーザーに加え、3世代がくらしやすいまちとなるような施策の検討を行う。また、第2章の「活かす」において、この考え方を指針等に反映させた。 	13～
<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインの視点に、子育て、子供の視点や3世代で来られるようにすれば、にぎわいづくりにもつながっていくと考えられる。 	(22)	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインについては、さらに充実していくようご指摘の視点に立った整理を行った。 	16
<ul style="list-style-type: none"> 自転車利用環境総合計画の施策実施の際は、目的を明確にし、メリハリをもって取り組んでいただきたい。 	(25)	<ul style="list-style-type: none"> 自転車走行空間整備では、自転車通行量や要望の多い路線から順次整備を進める。また駐輪対策では、放置自転車の台数などから課題のある駐輪場を抽出し、順次対策を検討・実施する。施策の実施にあたっては、みちづくり計画で5箇年の目標を明示し、メリハリをつけて事業を進めていきたい。 	22
<ul style="list-style-type: none"> コミュニティサイクルの導入するにあたっては、ターゲットをしぼったポートの検討や自転車走行空間の整備もあわせて推進していく必要がある。 	(23)	<ul style="list-style-type: none"> 自転車走行空間やポートについて、みちづくり計画で5箇年の目標を明示するとともに、観光利用やビジネス利用など、様々な目的で使ってもらえるようなポートの配置を推進する。 	22, 25
<ul style="list-style-type: none"> 放置自転車等の問題については、子どものころから授業等で積極的に取り組んでもらいたい。 	(25)	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の総合学習の時間で実施している「みち・みず・みどりの学校」において、自転車のルールやマナーを学んでいただくDVDやクイズを実施しており、今後も継続して実施することを第2章の「活かす」に反映した。 	24
<ul style="list-style-type: none"> リデザインのエリア内では歩行者優先の道路空間を推進し、自動車交通は外周道路により交通機能確保すべきである。 	(23)	<ul style="list-style-type: none"> 都心のリデザインでは、歩行者・自転車・車がバランスよく組み合わせられた高質な道路空間を目指すこと、通過交通の分散化を図ることについて第2章の「活かす」に反映した。 	26, 62
<ul style="list-style-type: none"> 三宮中央通地下通路等、地下空間がさみしいので、魅力・にぎわいづくり等により地下空間を有効に活用すべきである。 	(23)	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度からイベント等によるにぎわい創出に取り組むとともに、地下空間のあり方についても検討を行っており、第3章の「都心・ウォーターフロント」に反映した。 	27, 62

これまでの主なご意見		回	計画や施策への反映	反映ページ
<ul style="list-style-type: none"> フラワーロードの鉄道高架下の歩道空間は狭くて暗いので、三宮駅の面的整備の中で、バスの乗降場所も含めて十分に検討していただきたい。 通過交通を都心部へ流入させないための取り組み強化が必要である。 	(23)	<ul style="list-style-type: none"> フラワーロードの鉄道高架下歩道空間はライトアップを実施している。また、三宮周辺地区の「再整備基本構想」において、バスの乗降場所を含めて、面的に検討を進めていく。 	28	
	(23)	<ul style="list-style-type: none"> 都心部への通過交通の抑制については、第3章の「都心・ウォーターフロント」に位置付けている。 	62	
<ul style="list-style-type: none"> 都心ウォーターフロントの回遊性として、海や港が感じられる南北動線や、海沿いを回遊する東西動線の整備推進が必要である。 	(23)	<ul style="list-style-type: none"> 都心ウォーターフロントの回遊性向上のために、南北動線、東西動線の整備を第3章の「都心・ウォーターフロント」に位置付けた。 	62	
<ul style="list-style-type: none"> 路線毎にイメージづけができるような整備を行えば、もっと魅力が高まるのではないかと思う。 道路デザインは神戸らしさが一番出るのではないか。そのため、神戸らしい、神戸の美しい写真、みなとや山がみえるデザインされたみちの写真などを入れてはどうか。(来た人が美しいと思う道路、景観をつくる道路の写真) 	(23)	<ul style="list-style-type: none"> 道路や周辺エリアの特性に応じて、市民の皆さんに愛着を持ってもらえるような道路の整備を第2章の「活かす」に位置付けた。 	13～	
	(事前)	<ul style="list-style-type: none"> 「活かす」の「4、景観に配慮したみち」において、海が見えるデザインされたみちの写真を挿入した。 	29	
つなぐ～地域をつなぐ、経済を支える～				
<ul style="list-style-type: none"> 主要幹線道路ネットワークの整備（大阪湾岸道路西伸部、神戸西バイパス等）が重要である。 ミッシングリンクである大阪湾岸道路、神戸西バイパス等を早急に進める必要がある。 	(23)	<ul style="list-style-type: none"> 主要幹線道路ネットワーク（大阪湾岸道路、神戸西バイパス等）については、今後も計画に位置づけ、整備を推進していく。 	33	
	(24)			
守る～環境に配慮する・災害に備える～				
<ul style="list-style-type: none"> 緑のネットワークなどがあれば、よいと思う。 公共交通施策や道路ネットワークの将来像を踏まえた視点が必要である。 	(事前)	<ul style="list-style-type: none"> 水とみどりのネットワークについて、第3章の「守る」に位置付けた。 	56	
	(24)	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通施策を第2章の「守る」に位置づけるとともに、道路ネットワークの将来像を踏まえ第2章の「繋ぐ」へ反映した。 	54, 32	
第3章 地域に応じた課題と主な施策				
<ul style="list-style-type: none"> それぞれの場所の空間特性に応じ、そこで何が重要とされているのかということを見なければならぬ。場所ごとに重点を置くべきものを明確にする必要がある。 神戸らしさが重要であり、これらを表現するためには地域別計画にいかにか地域の特性を取り込むことができるかである。そのため、3章（地域特性に応じた取組）に力を入れていただきたい。 	(22)	<ul style="list-style-type: none"> 第3章について、市内を5つのエリアに分けて、現状と課題を整理し、地域特性に応じた取り組みを位置付けた。これにより、神戸らしさを表現した。 	58～	
	(事前)			
<ul style="list-style-type: none"> 同一路線でも、休日と平日の特性を踏まえて検討を行うべき。 	(23)	<ul style="list-style-type: none"> 都心ウォーターフロントのエリアについては、平日と休日の目的の違いについて明確にしたうえで、施策の検討を行う。 	60	
<ul style="list-style-type: none"> 都心・ウォーターフロントについて、公共交通と自動車の割合を平日と土日ごとに出した方がよい。平日は通勤であり、土日にはぎわいや観光など、目的が違うと思う。道路の機能を明確にした方がよい。 	(事前)			
<ul style="list-style-type: none"> 他都市と違う取り組みが必要ではないか。自然を活かす探検できるみちづくりが入ればと思う。 	(事前)	<ul style="list-style-type: none"> 自然を活かす探検できるみちづくりについて、道路の施策としては難しいが、森林整備事業のなかで取り組んでいる。 	—	
その他				
<ul style="list-style-type: none"> 神戸市の総合計画や「都心の未来の姿」など、上位計画や関連計画とは祖語のないよう検討を行う必要がある。そのため、みちの懇談会で計画関連の情報共有を行うとともに、みちの懇談会で出た意見を、上位計画や関連計画へ反映してほしい。 	(24)	<ul style="list-style-type: none"> みちの懇談会で出た意見や考え方については、みちづくり計画へ反映するとともに、神戸市の総合計画や「都心の未来の姿」など、上位計画等に反映した。 		